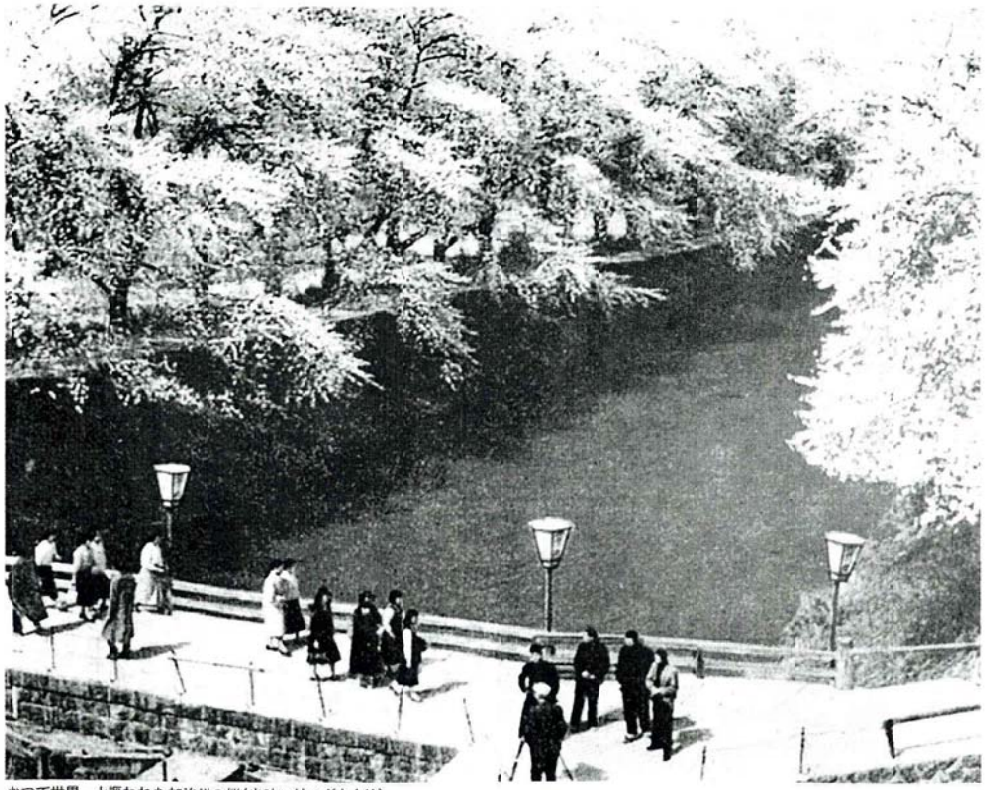
NPO法人加治川ネット21情報誌

かじかNET21

水辺のひろば

No.11

2010年　4月 1日発行



かつて世界一と謳われた加治川の桜（当時の絵ハガキより）

川のある風景
～加治川と桜～

新発田市の中心を流れる加治川は、この地域の恵みの象徴として多くの人たちに愛されてきました。

大正天皇即位を記念して植えられた加治川堤の桜は、かつて東洋一とも、世界一とも謳われ、地域の誇りでもありました。貧乏桜と揶揄されるくらい、忙しい農作業を尻目に、最盛期には臨時駅までできて、市内外からの多くの観光客で賑わいました。

しかし、それも今や昔の話。不運にも昭和41・42年の水害で堤防が決壊し、伐採を余儀なくされました。地域の熱意で平成元年から復元されてはいるものの、まだまだ往時とは比べものになりません。

それでも、最近は背丈も伸び、時期ともなれば花が咲きほころび、加治川の両岸をピンクに染めます。派川加治川の桜も見事です。

白く輝く飯豊の峰々の残雪が加治川の桜並木を一層鮮やかに浮かび上がらせます。桜はいつも私たちの春の象徴です。

越後新発田加治川堤（当時の絵ハガキより）

写真の絵はがきは、三条市在住の田辺修一郎氏がコレクションされた貴重な絵はがきの中のひとつです。往時の加治川の桜並木を偲ばせます。

こんな場所発見
境川

松浦地区の荒川集落に入る手前に幅約3mの直線の小川「境川」があります。この地は当時の水原天領と新発田藩の威信のかかった境界争いの場所であり、江戸時代の三代将軍家光のころに幕府評定所にまで持ち込まれ、裁断されてできた川なのです。

当時の荒川地区は天領として水原代官所の管轄、隣接する松岡地区は新発田藩の領地で、その境界ははっきりしていませんでした。そのため互いの領民は自分の領分を主張し譲らず、相手の植えた稲の苗を踏みつけ、新たに自分の苗を植えるような騒動も起こしていました。新発田藩も水原代官所も相手が天領、外様大名ということで一方的に裁断できず、幕府の評定所に訴え出ました。

実況見分がなされ証拠が無ければ、幕府側は代官所側に有利な裁断を下してしまうと予想した松岡の老婆は、境界の下と思われる地中に密かに墨を埋め連ね、幕府役人の見分が始まるや役人の前に進み「この地の境の下には墨が埋めてあると先祖より伝聞している」と申し出ました。そしてそこから墨が出てきたので、それをもとに幕府評定所が境界を決定し、境に沿って川を掘らせ「境川」と名づけたということです。

参考出典：大沼俊爾編「しばたの伝説」より

新発田の自然
「イバラトミヨの発見その後」

イバラトミヨは、「レッドデータブックにいがた」で絶滅危惧Ⅰ類に指定されている体長5cmほどの里地に棲む魚です。生息には湧水が必要で、県内では胎内市、五泉市、新発田市の3か所にしか生息していません。新発田市では一旦絶滅したといわれていましたが、2002年8月に市内六日町地区で、その後、隣接する久保、太斎地区などでも生息が確認されました。

現在、イバラトミヨの生息する久保、太斎地区は、農業基盤整備事業が行われており、2005年7月に農業用水を貯水するファームポンドが竣工しました。このファームポンドや接続する用水路は、土底の部分を残すなど生物に配慮した構造で、湧水やバイカモの水生植物が保全されています。

加治川ネットでは、整備されたファームポンドに生物が生息しやすいように移行帯（エコトーン）を造り、子供たちや地域の方々と維持管理を行いながら、年2回程度生物調査を行っています。その結果、浅くなった水辺はイバラトミヨの稚魚などのゆりかご、繁茂する植物はトンボ類の羽化などに利用されていることがわかりました。

今後も地域の方々といっしょにファームポンドに生息する生物を観察し、よりよい農村環境を保全していく予定です。

寄稿　殿様街道てくてく旅⑤
越後街道から白河街道へ

今回は会津坂下の続きから。国道49号を会津若松市内に向けて歩き、七日町に到着。ここは大正時代の街並み復元で町おこしに成功しているところ。駅向かいの阿弥陀寺には鶴ヶ城本丸にあった建物が移築された建物、戊辰戦争でなくなった藩士の墓がある。飯盛山脇を滝沢峠目指し、石畳の残る道をひたすら登る。

峠山頂で昼食を取り再出発。坂路を下り金森集落を抜け、沓掛峠への道を少し登ると「金堀の滝」。猪苗代湖を水源として会津盆地を潤す灌漑用水路「戸ノ口堰」の一部で、300年以上前の人工の滝とのこと。沓掛峠がわからないまま国道294号へ。穴切集落の「穴切の一里塚」、宿場として栄えた赤井集落を見て、更に歩みを進める。

（次号へ続く）

《編集後記》

このところ多い自然災害のニュース。2月のチリ地震では、気象庁が早々に津波情報を発表し、関係市町村では避難勧告、避難指示を出し、住民に避難を呼びかけましたが、避難した人は全体の4％弱だったそうです。人的被害が少なかったのはなによりでしたが、遠い国チリで発生した地震は津波を呼び起こし、日本に到達し、漁業に甚大な被害をもたらしました。被害に遭った魚介類をスーパーが買い取ったというニュースに、ほっとしたのは私だけでしょうか。

もし新潟県近海でマグニチュード6以上の地震が発生すれば、津波が沿岸に到達するのは十数分との話もあります。今回は太平洋側の話でしたが、とても他人事とは思えません。

そんな状況の中、海上でサーフィンをしていた人が全国で千百人もおり、波を求めて、わざわざ出かけて行った人もいたとのこと。自然を相手に「自分だけは絶対大丈夫」ということはないのですが。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設　立	1996年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子供たちによい環境（自然、伝統、文化）を残し、引き継ぐこと。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、植物観察、小学校環境学習支援及び発表会開催、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催 等
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか

発行：NPO法人 加治川ネット21　事務局所在地：新発田市小戸886-1　電話：(0254)31-4111　ホームページアドレス：http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/

活動あれこれ

おいしい雑煮はいかが 雑煮合戦 その1

具だくさんで安心、おいしいよ。

1月10日午前10時、加治川ネット21が構想3年の末、総力を傾けて作り上げた「こんとん雑煮」を携えて参戦した雑煮合戦の開幕です。

「こんとん雑煮」のコンセプトは地産。新発田とその周辺で採れた根菜類と山菜、紫雲寺パイオニアポークを使い、おいしくて安心な雑煮を提供するとともに、地元食材の存在に目を向けてもらうこと。

準備に手間取りバタバタしているうちに開始時間を迎え、すぐに数人が並び、幸先のいいスタートを切ったものの、客足はそこまで。隣の「味噌煮込み雑煮」も同じ状況でひとまず安心はしたものの、いやな雰囲気が漂います。客寄せのため、きれいどころ(?)を店の前に出し、呼び込みをかけましたが、開始から30分経ち、1時間経ちするも、売り上げは伸びず、「こんなにおいしいのに、なぜ(?)」。

やがて、人気の店が完売し、「さあ、客が流れて来る、これからが勝負」と気合をかけるも、依然として販売は低調。最後は値下げしたり、知人を見つけては無理やり店に引き込んだり、販売促進に努めましたが、結局目標に大きく及ばず、あえなく完敗となりました。

次回は作戦を練り直して「リベンジダー」。

風雪の陣 雑煮合戦 その2

合戦とはよく言ったものです。新発田城の前の公園はぬかるみ状態で、足下をみればまさに合戦の様が伺えます。

さて、新発田市をはじめ全国各地の伝統・創作雑煮が一堂に会する冬の風物詩「第6回城下町しばた全国雑煮合戦」。カニや海老、アンコウ、ホタテ、和牛をメーンにした「素材派」から、カレーやチョコ、ラーメンを使った「企画派」まで、10都道県の51品が勢揃いし、足下の悪い中、それぞれがテントで陣を張り、優劣を競いました。

今年は各店とも400食以上を準備し、午前10時から計約2万食を販売(売り切れ次第終了)。価格は250～500円程度。最後には、来場者による人気投票でグランプリ(征夷大将軍)の雑煮を決めます。当会の「こんとん雑煮」は、グランプリの「グ」までも届かず。

辺りを見回してみると威勢の良い陣は、素材が一際目につきます。素材という豪華な競い合いのなかでも目を引いたのがチョコ雑煮です。居酒屋でとりあえずビールという世代に対して、最近は、リキュールやソフトドリンク系などの甘めのお酒が若い人に受けています。チョコ雑煮は、そういう新たな食文化の象徴なのかもしれません。あれは雑煮ではないという人もいるかもしれませんが、確実の食の変化を反映したものです。

最後に、ちょっと提案を。「合戦」というイメージを考え新発田城址公園で開催しているのでしょうが、駐車場、アクセス、天候対策、足下環境、商売の繋がりなどを考えると、アーケードのある商店街を会場にするのも一考に値すると思います。どうでしょうか。

「環境」もいろいろ！ 小学生の学習発表

地域紹介をクイズ形式で

当会が主催する大事業、新発田市・聖籠町小学生による「環境学習発表会&ポスター展」が、平成21年11月8日、新発田市生涯学習センターを会場に開催されました。今回が3回目となるこの事業ですが、年度当初は予算不足から「今年度の開催は無理」と思われていました。しかし、(財)新潟県勤労者福祉厚生財団や菊水酒造、イオンなどの企業から寄付をいただくことができ、なんとか開催に漕ぎ着けました。

今年は新発田市や聖籠町の小学生の他に、新潟市立太田小学校も特別参加。加治川小学校が新型インフルエンザの影響でやむなく辞退し、参加は米倉、川東、二葉、荒橋、蓮野、太田小の6校でしたが、持ち時間の中、体験や気付きを大人たちにも伝わるようにと、一生懸命に発表し、会場の約200人の聴衆も真剣に聞き入っていました。

この発表会に合わせ、学習センターやジャスコ新発田店では学習成果のパネル展示も行われました。ステージでの発表は無理でも、パネルならばと参加してくれた学校も多く、「環境学習」をテーマに自然、生物、資源など、さまざまな切り口での学習成果パネルが並びました。各校の取り組みに見入っている姿や、子どもたちが自分の学校の作品を見つけ、誇らしげに家族に紹介する姿などが見られました。

この取り組みは、児童たちのための学習に止まらず、市民の皆さんが小学生から元気をいただける事業としても有意義であると感じています。

パネルは力作ぞろい

今年の味噌はどんな味 手前味噌の会

加治川ネット21主催の「食」事業、「手前味噌の会」が、3月14日、米倉有機の里交流センターで開催されました。

毎年恒例となってきたこともあり、リピーターも多く、定員を大きく超える60人から申し込みがあったため、今回も2回に分けての作業となりました。今年も講師は藤田味噌糀店の藤田さん。

豆と麹、そして塩、シンプルな食材が発酵により深みのある味噌に変化します。用意した材料はもちろん県内産。夫婦や家族での参加も多く、豆と麹を混ぜながら会話も弾んでいました。食べごろは半年後。「涼しすぎず暑すぎない場所に保管を」とのアドバイスを忘れずに今年の味噌はどんな味に仕上がるか楽しみです。

2010年度通常総会 記念講演は江戸時代のエコがテーマ

2月7日、当会の2010年度総会が新発田市ボランティアセンターで開催され、今年度の予算や事業計画が決まりました。今年も盛りだくさんの事業が組まれており、忙しい年になりそうです。

毎年、総会後には記念講演を行っていますが、今年は敬和学園大学の趙晤衍(チョウオヨン)准教授を講師に迎え、「江戸時代はエコ時代～江戸時代の循環システムに学ぶ～」をテーマとした講演でした。会員以外にも参加を呼びかけたこともあり、会場はほぼ満席。

日本に来て19年という趙准教授は、流暢な日本語で、江戸時代の日本が物を大事に使い、自然から得られる恵みを巧みに利用して循環社会を築き上げていたことを分かりやすく説明。また、私たち日本人が特に意識していない行為には東洋思想として、その原点が儒教の教えから来ている、儒教はなにも古臭い考えでもなく、思想哲学として、自然環境保護に通ずるとも話されました。

桶を再生させる「たが屋」、古い鍋などを修理する「いかけ屋」、瀬戸物の「焼接ぎ屋」、「かさの古骨買い」など、現代ではほとんど耳にすることがなくなった職人技が、江戸時代の暮らし、物を大切にする心を支えていたこと、現代に生きる私たちが次世代に伝えなければならないものは、こんな身近にもたくさんあることを改めて感じさせられた講演でした。

くらしの方言 その5

「大バラはキレイ？」

母　「あいやっ～、和也。また部屋をば散らがしてー。かたづけれっ！お父さん、言うてやってー。」

父　「こらっ和也。自分の部屋ぐらい**オオバラ**にしてねぇで掃除せぇ！ いっつでも言われでるろぉ。」

和也　「う～ん。するさぁ。でも、したら父ちゃんも綺麗にしねまねでぇ～。」

父　「なしてだぁ？ おらの部屋なんて、ちぁんとしてるど。」

和也　「だども、父ちゃんの仕事は、いっつでも**オオバラ**だど爺ちゃんが言うてやったでぇー。」

父　「・・・」

「オオバラ」とはバラ(散る)でまとまりのない様を形容している言葉で、部屋などが乱雑でひどい状態のことを言います。仕事がまとまりのつかない状態の時にも使います。

環境豆知識 桜前線

動物の出現や鳴き始め日、渡り鳥の去来、そして植物の発芽や開花、紅葉の日など、毎年同じ場所で、標本を決めて観察することを生物季節観測といいます。その中でも、桜は春の訪れの代表として開花日に多くの人の関心を集めます。

桜前線は、桜が開花する同じ日を地図上に記入し等高線状に結ぶと、その動きが南から北へ移動する天気図の前線に似ていることから、そう呼ぶようになりました。3月下旬に九州や四国南部地方から始まる桜前線は、1日で30kmの速度で北上していき、5月中旬頃に北海道の東部で終了します。開花して80%咲きそろった時を満開としていて、西日本では7日から10日かかり、東日本では4日から6日と、北に行くほど短い傾向があります。

なお、今年から気象庁が桜の開花予想業務をやめた為、代わりに民間の気象会社が競って予想を行っています。

参考出典　宮沢清治著　「天気図と気象より」

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介(順不同)

㈱日園、曽根建㈱、㈲みずほ園芸、片山食品㈱、㈱アートグラフィック新潟、大進電業㈱、大豊電気㈱、㈲ひかり電工、ミトモ電設㈱、ベック㈲、北越緑化㈱、新発田ガス㈱、菊水酒造㈱、NPO法人 赤とんぼ、㈱馬場工務店、㈱静岡グリーンサービス、聖光園㈲、はまだ歯科医院、エヌシーイー㈱、㈱花安 新発田苗場、新潟グリーンテック㈱、㈲高橋基礎、若月建設㈱、昭栄印刷㈱、川東土地改良区